

2023 年度事業報告書

I 事業の実施概要

(1) 助成事業……………	2
(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～ …	3
(3) 制作者フォーラムの開催 ……………	4
(4) 設立 50 周年記念事業……………	5
(5) 定期刊行物の刊行……………	6
(6) ホームページ等による広報……………	7
(7) 資産運用検討委員会の開催……………	7

II 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項……………	8
(2) 理事会および評議員会に関する事項 ……………	12

III 付属明細書(資料 1～4)

2023 年度事業報告書

I 事業の実施概要

まもなくラジオ放送が開始されてから 100 年が経過しようとしているが、近年の通信技術の著しい発展により、放送を取り巻く世界は大きな転機を迎えつつある。

このように日常生活における放送の位置づけが日々変化を続けていくなかで、放送文化基金は放送を中心としたメディア文化の発展と向上に貢献すべく、設立 50 周年記念事業を含めた事業の着実な遂行と充実に努めた。

助成事業においては、昨年度に引続き学術誌に広告を掲載し、周知活動の強化に取り組むとともに技術開発部門における申請件数の増加に対応して予算額を大幅に上回る規模の助成を実施した。なお、技術開発部門の助成金の一部に解散した東京ケーブルビジョンから受入れた寄付金を充当している。

表彰事業においては、放送文化基金賞贈呈式のイベントとしての質的充実を図りつつ、視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組やコンテンツおよび個人・グループの表彰を実施した。なお、受賞者にとってより魅力ある賞とするべく今年度より一部賞金の増額を行った。

制作者支援活動事業においては、「北海道・東北地区」、「愛知・岐阜・三重地区」、「九州・沖縄地区」の 3 地区で現地の実行委員会との共催による制作者フォーラムを開催し、系列や地域の枠を越えた交流の場を若手制作者等に提供した。なお、各地区における制作者フォーラムが一層充実したものとなるよう支援額の増額を行った。

設立 50 周年記念事業では、記念シンポジウムを上智大学との共催で開催したほか、放送文化基金報(HBF)の設立 50 周年記念号を刊行するなどの事業活動を展開した。

(1)助成事業

ア 2023 年度助成

2023 年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の 2 分野を対象に公募を行った結果、79 件の申請があり、助成審査委員会の審査と理事会の審議を経て、最終的に 33 件、7,857 万円の助成を決定した。

申請および採択結果は、次の通りである。

(単位 万円)

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技 術 開 発	29	11,408	12	4,888
人文社会・文化	50	10,090	21	2,969
合 計	79	21,498	33	7,857

(助成一覧 資料 1)

なお、金融緩和政策の長期化により資産運用収入が減少する状況下で、助成事業を安定的に継続していくため 2014 年度から 5 年間にわたり積み立てた助成費用準備資金から 2,000 万円、また解散した財団法人東京ケーブルビジョンより 2017 年に受け入れた寄付金から 1,000 万円をそれぞれ取崩して、助成金の一部に充当している。

助成金贈呈式は 2024 年 3 月 1 日に開催され、目録贈呈式と懇親会を実施した。また、目録贈呈式に先立ち、技術開発部門では奈良先端科学技術大学院大学准教授の神原誠之氏による『対話ロボットを用いた TV ゲーム雑談システムの構築』、人文社会・文化部門では学習院大学法学部教授の周東美材氏による『戦後日本における職業音楽家としての「うたのおねえさん」の誕生』をテーマとした研究報告会を開催した。

イ 2021 年度助成事業の実施報告

2023 年 10 月に開催したそれぞれの審査委員会で、2021 年度に助成した技術開発 5 件、人文社会・文化 23 件の実施報告(成果報告・2023年6月末締切)について 1 件ずつ内容の評価を行った。

(2)表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第 49 回放送文化基金賞

2022 年度中に放送・配信された優れた番組・コンテンツとその期間を中心に顕著な業績をあげた個人・グループを対象に、2023 年 4 月～5 月に開かれた各部門の専門委員会、審査委員会を経たのち、理事会で計 30 件を決定した。なお、今回より従来の放送番組に加えて動画配信されたコンテンツも表彰対象とすることとした。また、優秀賞、奨励賞および個人賞の賞金額を増額している。

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
ドキュメンタリー	78	5	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 3
ドラマ	55	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
エンターテインメント	61	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
ラジオ	32	3	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 1
個別分野	—	6	番組・コンテンツの受賞作品から選定
放送文化	15	4	—
放送技術	10	4	—
合 計	251	30	

(「放送文化基金賞」受賞一覧 資料 2)

賞金は最優秀賞が 100 万円、優秀賞が 70 万円、奨励賞が 50 万円、個人賞は各 30 万円。また放送文化・放送技術部門の賞金は各 30 万円。

最優秀賞を受賞した番組・コンテンツは、ドキュメンタリー部門が『性別は誰が決めるか ～「心の生」をみつめて～』（北海道放送）、ドラマ部門が『エルピスー希望、あるいは災いー』（関西テレビ放送）、エンターテインメント部門が『～この後どうする？密着TV～ 終わりが始まり』（読売テレビ放送、中京テレビ放送）、ラジオ部門が『講談風大河ラジオドラマ「弁慶記」』（FM TANABE）である。

このほか放送文化が 4 件、放送技術が 4 件受賞した。放送文化基金賞の贈呈式は、2023 年 7 月 13 日にオークラ東京で開催した。

イ 他の賞への参加

ABU(アジア太平洋放送連合)番組コンクールおよび「創作ドラマ大賞」に参加した。

ABU番組コンクールの授賞式は、2023 年 10 月 31 日に韓国のソウルで行われ、スポンサーの一員として賞金 US\$4,000 を贈呈した。

日本放送作家協会とNHKが主催する「創作ドラマ大賞」について、第 48 回「創作テレビドラマ大賞」の贈賞式は 2023 年 11 月 2 日に行われ、大賞の『明日、輝く』（竹上 雄介 氏）に賞金 50 万円を贈呈した。また、第 52 回「創作ラジオドラマ大賞」の贈賞式は 2024 年 3 月 25 日に行われ、大賞の『父さんが会いにきた』（門前 日和 氏）に賞金 50 万円を贈呈した。

（他の賞への参加結果 資料 3）

(3)制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクション等、組織の枠を越えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に開催している。

2023 年度は、「北海道・東北地区」、「愛知・岐阜・三重地区」、「九州・沖縄地区」の 3 地区で開催され、現地実行委員会との共催によるミニ番組コンテストと審査員によるトークセッションが行われた。

さらに、2024 年 2 月 17 日(土)に東京で全国制作者フォーラム 2024 を開催し、上記 3 地区のミニ番組コンテストで入賞した作品の上映とゲストのベ

テラン制作者との意見交換、トークセッション『テレビは終わらない』を実施した。

○北日本制作者フォーラム in やまがた（北海道・東北地区）

＜北海道・東北の全民放とNHK 計34局＞

日 時 2023年11月17日（金）

会 場 山形テルサ／山形市

参加者 約40人

○愛知・岐阜・三重制作者フォーラム in なごや（愛知・岐阜・三重地区）

＜愛知・岐阜・三重の全民放とNHK 計10局＞

日 時 2023年11月22日（水）

会 場 東別院ホール／名古屋市

参加者 約80人

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

＜九州・沖縄の全民放とNHK 計33局＞

日 時 2023年11月25日（土）

会 場 NHK福岡放送局 よかビジョンホール／福岡市

参加者 約60人

(4)設立 50 周年記念事業

ア 記念シンポジウムの開催

○放送文化基金設立 50 周年 上智大学メディア・ジャーナリズム研究所

創立 10 周年 記念シンポジウム

「ジャーナリズム・放送の未来を考える～AI とメディア～」

日 時 2023年11月11日（土）14:00 ～ 17:00

会 場 上智大学(東京都新宿区) およびオンライン配信

参加者 約240名(学生他上智大学関係者を含む)

<プログラム>

- ・基調講演「AIとメディア その可能性と課題」

Aimee Rinehart 氏（AP通信AI戦略プロダクトマネージャー）

聞き手 国枝 智樹 氏（上智大学新聞学科准教授）

- ・パネルディスカッション

「ジャーナリズム・放送の未来を考える～AIとメディア～」

パネリスト 井上 直樹 氏（NHK メディア総局エキスパート）

尾崎 元 氏（共同通信「メディア戦略情報」編集長）

亀松 太郎 氏（記者・編集者／元関西大学特任教授）

国枝 智樹 氏（上智大学新聞学科准教授）

モデレーター 音 好宏 氏（上智大学新聞学科教授）

イ 設立 50 周年記念誌の発行

○放送文化基金報(HBF)設立 50 周年記念号

<構成>

- ・設立 50 周年記念シンポジウム「ジャーナリズム・放送の未来を考える
～AI とメディア～」 開催報告

- ・放送文化、永遠なれ 川平 朝清 氏（元放送文化基金事務局長）

- ・放送文化基金は「放送界の広場」 鈴木 嘉一 氏（元読売新聞編集委員）

- ・事業(助成、放送文化基金賞、制作者フォーラム)のあゆみ

- ・年表、財政の 50 年 ほか

(5)定期刊行物の刊行

2023 年 10 月には放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載した
放送文化基金報(HBF)No.95 を刊行した。

2024 年 2 月には 50 周年記念事業の一環として放送文化基金報(HBF)
設立 50 周年記念号を刊行した。(詳細は上記)

(6)ホームページ等による広報

ホームページでは事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開と基金のPRに努めた。

<日本語版内容>

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞WEB申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿／基金の活動を親しみやすい形で紹介する読み物(読む・楽しむ) 等

<英語版内容>

助成の募集案内、助成対象一覧、放送文化基金賞の受賞一覧、ABU賞への参加について 等

(7)資産運用検討委員会の開催

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており、2023年9月28日と2023年11月28日に開催した。

イ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

服部 海（野村證券(株) ポートフォリオ・コンサルティング 部 ヴァイス・プレジデント）
松原 克美（放送文化基金 会計顧問・公認会計士）
清水 孝雄（放送文化基金 監事・TBS社友）
前田 浩志（放送文化基金 監事・日本放送協会経営企画局長）

(幹事)

梅岡 宏 (放送文化基金 専務理事)

Ⅱ 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員の選任等

(i) 第 33 回評議員会(2023 年 6 月 23 日)において、全役員の任期が満了となることを受け、定款第28条に基づき、次のとおり選任した。

(理事)

濱田 純一 氏 (東京大学名誉教授)

大石 芳野 氏 (写真家、東京工芸大学客員教授)

安藤 裕康 氏 (国際交流基金顧問)

小川 賀代 氏 (日本女子大学教授)

田中 早苗 氏 (弁護士)

梅岡 宏 氏 (元日本放送協会札幌放送局長)

(監事)

清水 孝雄 氏 (TBS社友)

前田 浩志 氏 (日本放送協会経営企画局長)

(任期は2023年6月23日から2025年6月の定時評議員会まで)

なお、羽鳥 光俊 理事、西村 睦生 理事は 2023 年 6 月 23 日付で退任した。

(ii) 理事長及び専務理事の選定

第 33 回評議員会で理事 6 名が選任されたのを受け、第 71 回理事会(2023 年 6 月 23 日)を開催して、定款第 28 条第 2 項に基づき、濱田 純一 理事が理事長に、梅岡 宏 理事が専務理事に選定された。

(iii) 理事長、専務理事の報酬について

第33回評議員会において、新しい理事長、専務理事の報酬について現行と同額とすることを定款第19条第2項(2)に基づき決議した。

イ 評議員の選任

第33回評議員会において、評議員の任期が満了となることを受け、定款第15条に基づき、次のとおり評議員18名を選任した。

青木 保 氏（政策研究大学院大学シニア・フェロー）
伊賀 健一 氏（東京工業大学栄誉教授・元学長）
池辺晋一郎 氏（作曲家）
稲葉 延雄 氏（日本放送協会会長）
大草 透 氏（日本放送協会経営委員会委員）
音 好宏 氏（上智大学教授）
マーシャ・クラッカワー 氏（聖心女子大学名誉教授）
小島ゆかり 氏（歌人）
杉山 愛 氏（スポーツコメンテーター）
鈴木 幸一 氏（インターネットイニシアティブ代表取締役 CEO）
高島 肇久 氏（津田塾大学理事）
高橋 英樹 氏（俳優）
中村 桂子 氏（JT生命誌研究館名誉館長）
長谷部恭男 氏（早稲田大学大学院教授）
堀木 卓也 氏（日本民間放送連盟専務理事）
向井 千秋 氏（東京理科大学特任副学長）
山名 啓雄 氏（日本放送協会専務理事）
和田 省一 氏（朝日放送テレビ名誉エグゼクティブ）

（任期は2023年6月23日から2027年6月の定時評議員会まで）

なお、今野 勉 評議員、遠山 敦子 評議員、林 理恵 評議員、
福地 茂雄 評議員は2023年6月23日付で退任した。

2024 年 3 月 31 日現在の役員、評議員は資料のとおりである。

(役員・評議員一覧 資料 4)

ウ 審査委員の委嘱等

(i)審査委員長の指名

第 70 回理事会(2023 年 6 月 6 日)において、審査委員長を次のとおり指名した。

・助成(技術開発) 審査委員会 審査委員長

都竹 愛一郎 氏 (名城大学教授)

(任期 2023 年 6 月 6 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

(ii)審査委員の委嘱

第 70 回理事会(2023 年 6 月 6 日)において、審査委員を次のとおり委嘱した。

・助成(技術開発) 審査委員会 審査委員

伊丹 誠 氏 (東京理科大学教授)

(任期 2023 年 6 月 6 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

(iii)審査委員の委嘱

第 73 回理事会(2023 年 10 月 11 日)において、審査委員を次のとおり委嘱した。

・助成(技術開発) 審査委員会 審査委員

奥田 晋 氏 (TBSテレビ取締役 技師長)

(任期 2023 年 10 月 24 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

(iv)審査委員の委嘱

第 75 回理事会(2024 年 2 月 9 日)において、審査委員を次のとおり委嘱した。

・助成(技術開発)審査委員会

委員長 都竹愛一郎 氏（名城大学教授）
荒川 薫 氏（明治大学教授）
伊丹 誠 氏（東京理科大学教授）
今井 亨 氏（日本放送協会放送技術研究所所長）
奥田 晋 氏（TBSテレビ取締役 技師長）

・助成(人文社会)審査委員会

委員長 黒崎 政男 氏（東京女子大学名誉教授）
佐藤 卓己 氏（上智大学教授）
竹中 千春 氏（国際政治学者）
山口いつ子 氏（東京大学大学院教授）

・助成(イベント事業)審査委員会

委員長 伊藤 守 氏（早稲田大学教授）
佐藤友美子 氏（追手門学院理事）
中嶋 太一 氏（日本放送協会理事）
西野 輝彦 氏（日本民間放送連盟特別主幹）

・放送文化基金賞審査委員会

委員長 桐野 夏生 氏（作家）
河合祥一郎 氏（東京大学大学院教授）
金田一秀穂 氏（杏林大学名誉教授）
河野 尚行 氏（放送批評家）
永井 研二 氏（元日本放送協会専務理事・技師長）
西野 輝彦 氏（日本民間放送連盟特別主幹）
丹羽 美之 氏（東京大学大学院教授）
山名 啓雄 氏（日本放送協会専務理事）

（任期 2024 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）

(2)理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
2023.6.6 (第 70 回)	・ 任期满了にともなう評議員候補者の推薦について ・ 任期满了にともなう役員候補者の推薦について ・ 理事長、専務理事の報酬について ・ 2022 年度事業報告および決算について ・ 審査委員会委員長の指名と審査委員の委嘱について ・ 第 49 回「放送文化基金賞」表彰対象について ・ 2023 年度「助成要項」について ・ 役員(監事)の退任について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況
2023.6.23 (第 71 回)	・ 理事長及び専務理事の選定について
2023.7.20 (第 72 回)	・ 審査委員会専門委員(助成・技術開発)の委嘱について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況

開催年月日	主 な 議 案
2023.10.11 (第 73 回)	・ 第34回評議員会の開催について ・ 審査委員(助成・技術開発)の委嘱について ・ 役員および評議員の報酬等支給規程の改定について ・ 事務局職員の処遇改善について ・ 再雇用者処遇ガイドラインの改定について ・ 放送文化基金 50 周年記念事業進捗状況について ・ 2023 年度事業活動収支施行見込について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況
2023.12.7 (第 74 回)	・ 2024 年度予算編成の考え方について ・ 2024 年度資産運用方針について ・ 第 50 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 代表理事および業務執行理事の職務執行状況

開催年月日	主 な 議 案
2024.2.9 (第 75 回)	・ 第 35 回評議員会の開催について ・ 助成規程の改定について ・ 審査委員会規程の改定について ・ 審査委員の委嘱について ・ 2024 年度「助成要項」について ・ 助成費用準備資金Ⅱ規程の改定について ・ 50 周年記念事業(放送文化基金50周年記念賞)について ・ 50 周年記念事業(イベント事業)について ・ 2023 年度助成の実施について ・ 2024 年度事業計画および収支予算の編成について ・ 審査委員会専門委員(放送文化基金賞)の委嘱について ・ 2023 年度事業活動収支決算見込みについて ・ 2024 年度業務予定について

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
2023.6.23 (第 33 回)	・ 2022 年度事業報告および決算について ・ 2023 年度事業計画および収支予算について ・ 第 49 回「放送文化基金賞」選考結果について ・ 事業の執行状況について ・ 任期満了にともなう評議員の選任について ・ 任期満了にともなう役員の選任について ・ 理事長および専務理事の報酬について
2023.12.7 (第 34 回)	・ 役員および評議員の報酬等支給規程の改定について ・ 2023 年度収支見通しおよび 2024 年度予算編成方針について ・ 設立50周年記念事業進捗状況について ・ 事業の執行状況について

Ⅲ 付属明細書（資料 1～4）